

議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係	合 議

このとおり報告します。

総 務 文 教 調 査 会

平成 30 年 5 月 24 日 (木)

9 時 57 分～12 時 43 分

全員協議会室

(委 員) 野藤委員長、小川副委員長

沖田委員、西川委員、永見委員、佐々木委員、道下委員、西田委員

(議 長・委員外議員) 村武議員, 柳楽議員, 上野議員, 布施議員, 芦谷議員, 田畑議員, 澁谷議員

(総務文教委員会 所管管理職)

〔総 務 部〕 砂川総務部長、山根総務課長、馬場安全安心推進課長

〔地域政策部〕 岡田地域政策部長、岡橋政策企画課長、邊まちづくり推進課長

〔財務部〕 宮崎財務部長、森脇税務課長、土谷資産税課長

〔金城支所〕 吉永支所長

〔旭 支 所〕 塚田支所長

〔弥栄支所〕 河上支所長

〔三隅支所〕 斎藤支所長

〔教育委員会〕 ~~石本教育長~~、佐々木教育部長、市原学校教育課長、牛尾学力向上推進室長

村木生涯学習課長、長見青少年サポートセンター所長、外浦文化振興課長

〔消防本部〕 佐々木消防長、本田警防課長

(事務局) 篠原書記 (報道) 山陰中央新報社、中国新聞

議 題

1 執行部報告事項

- (1) 平成 31 年度国県重点要望事項について
- (2) 平成 30 年度総合防災訓練について
- (3) 平成 29 年度空き家バンク制度の利用状況について
- (4) 浜田市地域協議会委員の選任について
- (5) 島根県立大学等の入学状況について
- (6) 敬老乗車券交付事業及び運転免許自主返納支援事業の申請状況について
- (7) 浜田市生活路線バス等の利用実績について
- (8) 「2020 年代の県立高校の将来像について」の提言について
- (9) 平成 30 年度軽自動車税の当初賦課状況等について
- (10) 平成 30 年度固定資産税の当初賦課状況等について
- (11) 平成 29 年度学力向上総合対策事業実績報告書
- (12) 浜田市社会教育アドバイザーの委嘱について
- (13) 中央図書館における駐車場ゲート開放に関する社会実験について

- (14) 子供の読書活動優秀実践図書館 文部科学大臣表彰について
- (15) 浜田市県立高等学校支援連絡協議会の設立について
- (16) 青少年サポートセンターの利用状況について
- (17) 「しまね映画塾 2018in 浜田」スケジュールについて
- (18) 消防団施設のあり方検討会の設置について
- (19) その他

(配付物)

- 平成 30 年度学校職員名簿
- 平成 30 年度園児・児童・生徒数一覧
- 浜田市立公民館館長・主事名簿

2 その他

火災で防災無線放送が流れなかった件について

【以下詳細は会議録のとおり】

【会議録】

(開 議 9 時 57 分)

岡本委員長

総務文教調査会を開会する。本日教育長は出張のため欠席と聞いている。

会議に入る前に4月1日付人事異動があったため、異動された職員の皆さんに挨拶をお願いする。

《 異動のあった職員より挨拶 》

野藤委員長

よろしくお願いします。

1. 報告事項

(1) 平成31年度国県重点要望事項について

野藤委員長

順次報告を願う。(1)の資料は要望全般にわたるものだが、総務文教委員会所管関係のみ報告願う。総務部長。

総務部長

(以下、(1)の資料をもとに説明)

野藤委員長

この件について委員から質疑は。

(「なし」という声あり)

野藤委員長

ではこの件については終了する。

(2) 平成30年度総合防災訓練について

野藤委員長

この件について、安全安心推進課長。

安全安心推進課長

(以下、(2)の資料をもとに説明)

野藤委員長

この件について委員から質疑は。道下委員。

道下委員

これが浜田市の自主防災会の全てか。

安全安心推進課長

全てではないが、今回参加いただける団体。

道下委員

となると割合はどのくらいか。

安全安心推進課長

各自治区についてはほぼ8割。ただ浜田自治区は3割から5割程度である。

道下委員

浜田市全体の訓練であるからには、今後100パーセントを目指すのだろう。どういう考えのもとに広めていくのか。

安全安心推進課長

6月3日に一斉訓練を行うのはあくまで理想で、中には自主防の考え方で個別に11月に予定している所もある。しかし6月3日に総合防災訓練を定めた日には、何かしら参加のお願いはしていきたい。自主防がこちらに協力していただけるという情報を掴

	<p>みながら、随時お願いしていこうと思っている。</p>
道下委員	<p>6月3日という設定が3月定例会で正式に認められたが、期間が短い。自治会や自主防の方がバタバタしている。ここをもっと検証の必要があるのでは。</p>
安全安心推進課長	<p>おっしゃるとおり。日の設定の仕方については急だったり、溝掃除等のイベントを予定している所もある。一緒にやるか別々にやるかも悩んだ。今後はそういう各地区の運動を柔軟に対応できるよう、なるべく早く設定できるようにしていきたい。</p>
道下委員	<p>行政連絡員や公民館活動でも良いが、今後は浜田市防災訓練を6月中にやるということ、徹底していった方が良い。そうすればあの頃に予定が入るという予定も立てられる。是非そうしていただきたいのだが。</p>
安全安心推進課長	<p>そのように努めていく。</p>
野藤委員長	<p>その他。佐々木委員。</p>
佐々木委員	<p>このペーパーだけでは内容が分かりにくいのだが、今まで浜田市全体で一ヶ所で一堂に取り組んでいた防災訓練よりも更に細かい、全く違った内容で取り組むのか。</p>
安全安心推進課長	<p>イメージとしてはそのとおり。今まではデモンストレーションだった。自衛隊が出たり海上保安庁が出たり、行動する人間が実際に出ていたが、今回はそれらを一切排除し、指揮本部のみスケジュールを追っていく。例えばこういった大雨が降った時にどういった指示を出すか、その時には関係団体とどういう調整をするか。あくまで本部がどのように動くかを検証する訓練である。</p>
佐々木委員	<p>実際の現場の動きも一緒に出来れば理想だろうが、まずは指揮系統をしっかり機能させるのが大きな目的という話だった。そうすると、これまで各自治区で参加団体を出されているが、指揮とは違う方向でやりたい所があるのでは。全体の調整はどうなっているのか。</p>
安全安心推進課長	<p>行動も時間帯もバラバラなのが実情であるが、こういう調整については各自治区の防災自治課にお願いして情報共有を図りながら、最終的にはうちとテレビ会議システムでもって情報共有を図る、状況についてはテレビ会議システムを1、2回使用して各自治区の訓練内容を伝達事項に替えて情報共有を図る計画にし</p>

	ている。
佐々木委員	各地域がより災害に対応しやすい形になったのではと思う。あとは地域の人に指揮のもとにいかに行動していただけるかが今後の大きな課題。そもそも訓練が変更に至った経緯は何か。
安全安心推進課長	総合防災訓練については6月議会で議員からも色々ご質問を受けた。市長からも見学ばかりではなくスケジュールを追った方が良いのではというご指摘を頂戴した。そのためこちらで関係機関とも相談し、指揮本部の訓練も必要だろうということで、今までやってないことに思い至り企画した。初めてのことなので揃わない点もあるが、それは次回に活かしたい。
佐々木委員	確かに、現場の方は滅多にない災害の際、非常に戸惑われるので、指揮系統しっかり機能するように訓練していただきたい。
野藤委員長	他に。永見委員。
永見委員	関係機関が指揮本部で明記されているが、この方は皆参加されるのか。
安全安心推進課長	裏面の右段が関係機関だが、この中で言うと当日席に座っていただく方、席には座らないが情報伝達訓練に参加いただく方といった棲み分けがある。国土交通省なり医療センターなりは当日来ていただく。NTT 西日本については、事務所で番をしていただき、うちの仮想想定に対応していただく。このように2系統に分かれている。
永見委員	理解した。これだけの人が組織本部にお集まりになって取り組みをされるのかと思ったので。よろしく願います。
野藤委員長	他に。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	ではこの件については終了する。

(3) 平成 29 年度空き家バンク制度の利用状況について

野藤委員長	この件について、政策企画課長。
政策企画課長	(以下、(3) の資料をもとに説明)
野藤委員長	この件について委員から質疑は。佐々木委員。
佐々木委員	21 年度からの累計で、U I ターン者の方が 69 世帯 157 人おられる。昨年度だけでも 15 世帯 31 人おられるということなので、

非常に効果のある取り組みだと率直に感じる。そんな感覚は担当課にもあるのか。

政策企画課長

おっしゃるとおり。そもそも定住促進のための受け皿の整備だった。この2年間で登録物件がかなり増えている。選択肢が増えることで選べるというのが成約に繋がっていると思われる。またクチコミでも広がっているのを実感する。受け皿としては非常に有効。

佐々木委員

定住促進の大きな政策の1つ、かなり大きなウェイトを占めているといったイメージか。

政策企画課長

定住を進めていくには住まいの確保が必要になってくる。もちろん空き家以外にも市営住宅等がある。そうした中で空き家の占める所は大きい。引き続き周知していきたい。

佐々木委員

非常に良い取り組みだし、非常に良い成果が出ているし、活用された方々も評価されていると思われる。私の住んでいる美川地域でもいつも担当者に来ていただいて指導してもらっている。空き家対策をしながら、いかに美川に人を呼ぶかという会合を常にしている。空き家がどんどん増えている現状で、その対応と共に定住促進を進めていくということで、費用対効果でも非常に良い取り組みと感じている。今でも制度は充実していると思うが、担当課としての取り組み意識は。今後益々膨らませていくイメージ等感覚はどうか。

政策企画課長

今後について、もちろん引き続き登録物件増加に努めたいと考えている。というのも入居率が8割近く上がっている、たくさんご利用いただいている実態もある。定住促進のみならず、空き家の利活用という意味でも、今後とも登録物件増に向けて周知に取り組みたい。

野藤委員長

西田委員。

西田委員

前々から重要性は認識していたが、ここでやっと成果が見えてきた。空き家所有者から私も時々相談を受けていた。ここ数年で登録物件が増えてきて、良いことだと思う。空き家対策特別措置法について少し紹介してほしい。

政策企画課長

平成27年度5月に施行された法律。空き家が増える中、地域の方からその適正管理についても、例えば状態が悪くなって危険

家屋が増えていく、それに対して対策する必要があるということで出来た法律。具体的には市町村に対して空き家等の対策計画を作ることを策定するよう謳っているし、あるいは市町村内で空き家対策協議会を立ち上げ、危険空き家の処置をどうするか判断をしていくような協議会を昨年度も設けた。加えて、どうしても危険家屋が危ないということなら、行政として指導あるいは勧告、除去、解体等の強制措置を取ることも謳ってある。加えて税制措置もあって、住宅用地については現在特例がある。固定資産税が6分の1に減っているが、特定空き家に認定されると除外される点も大きく働いているのではと考えている。

西田委員
政策企画課長

職員の意識もポジティブに変わってきたのが大きいと思うが。この制度を利用していただいている市民あるいはUIターンの方に非常に喜んでもらえていることを実感している。相談員はやりがいを持ってやらせてもらっているし、色々と連携させてもらっている浜田宅建センターも非常に喜んでくださっている。

西田委員

これからも空き家はどんどん増えていくと思うので、積極的によろしく願います。

野藤委員長

他に。

(「なし」という声あり)

野藤委員長

ではこの件については終了する。

(4) 浜田市地域協議会委員の選任について

(5) 島根県立大学等の入学状況について

(6) 敬老乗車券交付事業及び運転免許自主返納支援事業の申請状況について

野藤委員長

3件をまとめてご報告願う。まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長

(以下、(4)、(5)、(6)の資料をもとに説明)

野藤委員長

(4)について委員から質疑は。西川委員。

西川委員

浜田自治区を見るとかなりご高齢の方が多く、平均年齢も他自治区より10歳以上高くなっている。今年度、来年度で自治区制度の見直しを議論されると思うが、浜田自治区は人口規模も違うし、年齢層や人選等はこれで良いのかと疑問が湧いたのだが。

まちづくり推進課長

各自治区の自治会や町内会等の住民組織からの推薦に基づいて市長選任となる。こちらから条件等を示すことは難しい。

西川委員

他の自治区では40代の方等も見受けられたと思い。15名とい

う人数についてはいかがか。

まちづくり推進課長 合併当時の地域協議会設置の時の議論になろうかと思う。各自治区 15 名ずつで整理されたと同っている。地域協議会には正副会長が居るが、浜田自治区については人口規模も多いので副会長は 2 名代表で出てもらっている。

西川委員 今年度、来年度で自治区制度の見直し議論が進むと思うが、この体制で他自治区と同じように問題なく議論が深まるのか。

まちづくり推進課長 住民の皆さんからの代表ということで、各自治区で自治区制度についての議論をいただく中では、皆さんで意見を出していただき、全体の中でまた議論する流れなので、15 名で整理させていただきたい。

野藤委員長 その他。道下委員。

道下委員 浜田自治区の平均年齢は突出して高いの考えなければいけないと思う。今回新任のメンバーも浜田自治区は 3 名しか入れ替わっていない。2 年も経過するともっと入れ替わるべきと思う。異常なことだと思うがいかがか。

まちづくり推進課長 おっしゃるとおり浜田自治区は新任 3 名で、多くは前任からの再任となっている。委員選任にあたっては年齢や性別も配慮はお願いするものの、地域住民組織からの推薦を尊重させていただいた結果である。今後は委員ご指摘の点を踏まえて要請していきたいとは思ふ。

道下委員 もっと積極的というか、性根を入れていただかないと。自治区制度の検証もあるのだから、徹底してもっとやっていただきたい。

まちづくり推進課長 色々な考え方があろうかと思うが、自治区制度の検証については、これまでの経過を良くご存知の委員さんにも議論していただく必要もあると思う。年齢だけで判断するのが良いのか悪いか、整理させていただきたい。

道下委員 浜田地区は異常だ。

野藤委員長 その他。

(「なし」という声あり)

野藤委員長 (5) について委員から質疑は。佐々木委員。

佐々木委員 リハカレの入学状況だが、30 年度 55 名ということで、定員 120 に対して過半数に達していない。損益分岐点の人数は何名だった

まちづくり推進課長	か。 最低でも 80 名、安定経営のためには 100 名を目標と聞いている。
佐々木委員	なかなか定員を増やすのは至難の業という感じ。今までずっと議論されているように、公費投入しながらということもあり、更なる取り組み強化をしているとのことだが、頑張っておられても生徒獲得に勝てない一番の原因は何と評価しているか。
地域 Pj 推進室長	昨年度、リハビリテーションカレッジ在り方検討委員会というのを我々で開催させていただいた。提言をいただいて 11 月に学長と市長に提出していただき、12 月の総務文教委員会でもご報告させていただいた。あの提言にもあったように島根県内は、現在の中学生の様子を見た段階で、これから数年減り続けていくのが見えている。県内の需要も少ない。都市部でまだ需要の有るところを狙っていくべきではという提言もあった。それを受けて昨年度から、リハカレは東京に職員を送り込む等連携して取り組みを進めた。今年度すぐに実績は上がってこないが、東京方面での説明会頻度を増やしてルートも開けてきている。都会地の病院が独自に奨学金を設定しているところもあると、そういう所と連携を取ることも目指している。昨年度よりは少し上向くという報告をしたが 3 名増えたのみ。外国人 4 名が急遽来れなくなった。60 名を見込んでいたが最終的に 55 名に留まった。人脈等活かして更に伸ばしたい。それから沖縄にはニーズがあるという話で、昨年取り組みをしたところ 5 名の入学があった。こうしたところも強化をしていき、市としても見守っていき、協力できるところは支援していきたいと考えている。
佐々木委員	かなり努力されて動かれて、学生誘致をされているのだと思う。31 年度はこれより期待できるという話だが、80 名、安定で 100 名にはなかなか希望が見えてこない気がするが。
地域 Pj 推進室長	5 月のこの時点では全く見えていないが、学校の方にはこれまでの在り方検討委員会の提言について報告しているので、中間のところでも上向くような状況があれば、お知らせ出来るものはお知らせしていきたいと伝えている。これからの経過を見守り、可能な情報についてはまたお知らせしたい。全国的にも学生が確實

に減っていく状況の中で学生を集める困難は付きまとう。ターゲットを絞って実績が上がるよう取り組んでいきたい。

佐々木委員 答弁も厳しいし、実態は少子化に進んで競争が激しくなっており、困難を極めていると思う。しかし更に努力を重ねていただきたいとしか言えない。

野藤委員長 その他。西川委員。

西川委員 地元就職先がないので都会地からという話は聞いていた。沖縄については提言の中に無かったと思うが、0がいきなり5になっているので、こういう取り組みを水平展開すれば80名100名も不可能ではないと思うが。沖縄から5名来るにあたって、かなり大変だったと思うが何か具体的な補助等はされたのか。

地域Pj推進室長 元々具体的な情報源は我々も聞かせてもらっていないが、沖縄に需要があるという情報を業界の方で掴まれて、去年から取り組まれた。今年度も引き続き取り組むということで、7月には出張オープンキャンパスを那覇で開催する予定になっている。チラシ原稿をいただいたが、転居費用の支援や、入学された後の帰省費用一部支給等の特典を用意して学生確保策に努めておられる。出来るだけ有利な条件を示せるだけ示して、確保策に取り組んでおられる。

西川委員 沖縄だけでも結構確保出来そうな気がする。交流人口の増加も期待できる。引き続き頑張ってもらいたい。

野藤委員長 他に。道下委員。

道下委員 先ほど聞きそびれたのだが、外国人5名キャンセルの理由は。

地域Pj推進室長 詳しくは教えてもらっていないが、元々日本語学校を卒業して、日本語検定の資格を取ってこちらに留学されるというのがこれまでのパターンだった。その日本語検定の関係か、あるいは在留資格の関係か、ある程度人数をまとめて世話をする団体があるのだが、その関係で急遽難しくなったと聞いているが、詳しくは分からない。

道下委員 そこは徹底的に分析、追及して、ではどうするのかというのが欲しい。中国の方が30年度は6名いらしていただいている。もっと、シンガポールやタイ等もっと研究していただきたいが、どうなっているか。

地域 Pj 推進室長	こちらに来られなくなった原因は、どこかの段階では把握されているのかもしれないが、個人的な都合等も含まれると思うので深くは確認していない。実際に学生確保に影響のある原因があれば、学校とも相談して対策について考えたい。中国以外の国についてだが、日本語が話せる学生さんというのが前提として大きな部分を占めるので、日本語検定で資格を取られた生徒を求めている。そうすると中国からの方が多い。リハカレで持っている人脈の中で、中国人の学生を担当している組織があるということで、今年度については中国の方が多くなった。他国でニーズがあるなら門戸を閉ざさず模索したい。
道下委員	介護関係を含めてニーズは十分あるだろう。やる価値はあると思う。よろしく願います。
野藤委員長	その他。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	(6) について委員から質疑は。佐々木委員。
佐々木委員	自主返納についてだが、この2年間取り組んだ実績が示されている。年齢別・性別も分析されている。今回8km以上は、より割り増しの交付をするということなので、免許返納で厳しいのは山間地域の方だと思うので、その辺りの方の返納状況が気になった。やはり厳しいようなので、より促すという意味ではまだ通じていないように見受けられるが。
まちづくり推進課長	市の路線バス、デマンドタクシーの在り方等も含めて公共交通が充実していないと、免許返納は進まないと思う。今年度、地域公共交通計画の見直しを予定している。ニーズ等も踏まえて総合的に検討したいと思っている。免許返納制度だけを捉えて判断するのは難しい。
佐々木委員	これだけでは中山間地域の方にとっては免許を手放し難いと思う。公共交通再編の中でそういったことが進められるように、是非協議していただきたい。
野藤委員長	道下委員。
道下委員	28年度と比べて29年度交付率が落ちているのが、私は不満だ。
まちづくり推進課長	冒頭の説明でも触れたとおり、確かに29年度申請者数・交付者数ともに減少している。いわゆるヘビーユーザーさんは上限い

つぱいまで購入される反面、制度開始当初に購入された方で、あまり使う機会がなくて 29 年度に繰り越して使われる方がおられると聞いている。それが 1 人辺りの交付数は増えている理由だと思われる。

野藤委員長 西川委員。

西川委員 この事業の効果として、高齢者の事故率減少といった明らかな効果は出ているのか。

まちづくり推進課長 資料を持っていないので、改めて報告したい。

野藤委員長 他に。

野藤委員長 (「なし」という声あり)

野藤委員長 ではこの件については終了する。ここで5分の暫時休憩とする。

(休 憩 11 時 11 分)

(再 開 11 時 17 分)

野藤委員長 会議を再開する。先ほどの西川委員の質問について、安全安心推進課に資料があるということなので答弁してもらう。

安全安心推進課長 浜田警察署のデータがあるので、こちらでご紹介させていただく。人身事故発生件数から申し上げますと、平成 28 年度 87 件に対して、29 年度 74 件。人身事故件数は減っている。高齢者の浜田警察署の交通事故発生件数は、平成 28 年度が 4 件、29 年度が 1 件。基本的に減ってはいるが、高齢者の方は特に事故が多いので、啓発を続けていきたい。

野藤委員長 では次の議題に進める。

(7) 浜田市生活路線バス等の利用実績について

(8) 「2020 年代の県立高校の将来像について」の提言について

野藤委員長 この 2 件について、まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長 (以下、(7)、(8) の資料をもとに説明)

野藤委員長 (7) について委員から質疑は。

野藤委員長 (「なし」という声あり)

野藤委員長 (8) について委員から質疑は。佐々木委員。

佐々木委員	提言が3つという説明だった。協議は非常に重要だと思う。高校の取り組みの中身という視点だったかと思うが、もう一方で、生徒がより学びやすい学校で生活しやすい環境づくりも併せて、この場で要望を言うのも場違いかもしれないが、非常に重要ではないかと思う。5年後には600人を切るとのことで、少子化で益々厳しい状況になる。私立高校と公立高校の、先生の生徒に対する面倒見にかなり差があるのではと思っている。公立高校をやむを得ず辞めなければならないケースも少なくないと聞いている。アフターフォローが重要になってくるのではないかといつも感じている。その辺はいかがか。
まちづくり推進課長	資料の中では学習しやすい環境まで触れた報告には至っていないが、今後秋以降に、市町村と学校関係者、県教育委員会との意見交換会がある。島根県側で高校魅力化ビジョンを取りまとめられる際に、そういったご意見を我々から伝えたい。
佐々木委員	夢を持って思う高校に入学されても、違う理由で中途退学になる子供は可哀想なので、授業内容とともに子供たちへのアフターフォローを更に出来るよう、魅力ある学校を目指していただきたい。
まちづくり推進課長	しっかり伝えたい。
野藤委員長	その他。道下委員。
道下委員	私立の高校は生徒数もかなり伸びている、利便性も図っている。公立高校はどういう対応策を考えているのか。どんどん離れていく気がしている。後で良いので何かの情報があれば教えて欲しい。
まちづくり推進課長	後程させていただく。
野藤委員長	その他。
野藤委員長	(「なし」という声あり) ではこの件については終了する。

(9) 平成30年度軽自動車税の当初賦課状況等について

野藤委員長	この件について、税務課長。
税務課長	(以下、(9)の資料をもとに説明)
野藤委員長	この件について委員から質疑は。沖田委員。
沖田委員	4輪車について、平成29年は2万2315台で30年度は2万2357

	台と増えている。免許返納もこれだけの数だし人口減少なのに増えているのは何故か。
税務課長	詳しい分析はしていないが、感覚的には、普通自動車が減って軽自動車が増えているのではないかと考えている。
沖田委員	軽自動車の税金納付滞納はあるのか。
税務課長	滞納はある。4月30日現在の状況では、29年度現年分の収納率が99.01パーセントと集計している。
沖田委員	軽自動車の滞納だが、特定所有者が3年以上滞納しているケースはあるか。
税務課長	そういうケースを数字として掴んではいないが、個別案件として掌握している。
沖田委員	3年以上滞納しているということは、恐らく車検を受けられないと思う。浜田市内に車検を受けていない車両が結構あるのか。
税務課長	車検は納付書をもって受けることになっているため、そういうことはないと思っている。
野藤委員長	その他。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	ではこの件については終了する。

(10) 平成30年度固定資産税の当初賦課状況等について

野藤委員長	この件について、資産税課長。
資産税課長	(以下、(10)の資料をもとに説明)
野藤委員長	この件について委員から質疑は。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	ではこの件については終了する。

(11) 平成29年度学力向上総合対策事業実績報告書

野藤委員長	この件について、学力向上推進室長。
学力向上推進室長	(以下、(11)の資料をもとに説明)
野藤委員長	この件について委員から質疑は。道下委員。
道下委員	家庭学習ノートコンテストについて。やる子はやる、やらない子はやらないと受け取れるが、やらない子をどうやってやる方向へ促しているのか。
学力向上推進室長	全員やる方向で取り組んでいる。例えばある中学校の例では、

学級終礼の折に家庭学習の目当てを立てさせ、家でやってきて、翌朝にノートを全員提出する。そして正副担任がノートをチェックし評価を入れる。レベルの差はあるが、どの学校も全員に取り組ませている。その中で優れたものを選ぶ。

道下委員

所得格差というのがある。塾に行く・行かないの差はどうなっているか。

学力向上推進室長

塾に行く・行かないは家庭の問題なので学校は関与できない。家庭学習も含めて学習時間をきちんと確保する取り組みを各学校は一生懸命やっている。塾に行った子は塾の時間も入れている。

野藤委員長

その他。佐々木委員。

佐々木委員

浜田市では学力向上の取り組みを7種類くらいやっていると言明された。先週の議会報告会でも、浜田市の学校教育の取り組みを更に高めるようにという意見が出た。学校図書館の活用教育の取り組みについて、以前から興味を持っている。今日の説明を見ると、昨年よりはるかにページ数を取って、濃い中身になっている。これが浜田市の学校教育の大きな特徴だと思っているが、担当課としてはどうか。

学力向上推進室長

この取り組みは5年目になる。おっしゃるとおり、浜田市の大きな特徴だと私も思っている。読む力、そして今後は情報活用が大事なので、図書館活用にシフトしてきた気がする。その反面、本当の基盤部分となる読書指導を、再度地道にやっていかないといけないと思っている。

佐々木委員

私の記憶によると、5年くらい前か、溝口知事の声のもとに図書館活用に取り組んでいくということで、当初は松江等が中心だったと思う。浜田ではなかなか事業が進んでいないという話もあったが、昨今では、小学校で特に年々すごい勢いで授業時間数も延びているようなので、どこの学校もほぼ同じ状況で伸びつつあるように見えるがその辺の感覚はどうか。

学力向上推進室長

小学校は徐々に伸びてきたと思うが、中学校は横ばいが続いている。これは教科担任制だったり、国語教員のみでの取り組みで終わったりしがちなので、そこを広げていきたい。

野藤委員長

その他。

(「なし」という声あり)

野藤委員長

ではこの件については終了する。

(12) 浜田市社会教育アドバイザーの委嘱について

(13) 中央図書館における駐車場ゲート開放に関する社会実験について

野藤委員長

この2件について、生涯学習課長。

生涯学習課長

(以下、(12)、(13)の資料をもとに説明)

野藤委員長

(12)について委員から質疑は。道下委員。

道下委員

社会教育のアドバイザーとして5月1日に委嘱されたとのことだが、年間の活動はどのような計画になっているか。

生涯学習課長

週1、2回程度市役所に来ていただいて、公民館のヒアリングにおけるアドバイスや、図書館長との協議、課内における連携のアドバイスをいただいている。

道下委員

思ったより密な回数で、中身の濃い指導をしてもらえるものと期待する。予算はどこに付いているのか。

生涯学習課長

予算は元々ふるさと郷育事業に入っている。当初は5回程度の研修会を開く予定で41万の交通費と謝金を用意していたが、この先生が浜田市松原町にIターンされ、浜田に住んで社会教育のアドバイスがしたいということになった。よって旅費が不要になり、関係部署と協議させてもらった結果、年間を通じてのご指導に変更し、確保した予算の中で運用することとなった。

野藤委員長

その他。

(「なし」という声あり)

野藤委員長

(13)について委員から質疑は。佐々木委員。

佐々木委員

機械が壊れたのでそのまま社会実験を行っているとの説明だった。特にこれはといった変わった様子、困った様子は今のところ何か発生しているのか。

生涯学習課長

市民等から要望・意見が何件か入っていると聞いている。このままにしてほしいという意見。次にいわゆる無断駐車の実態だが、5月15日までは平均的に1、2台程度あったので、注意喚起の貼り紙をした。5月16日からはバーを置いて、本返却者の駐車場で、それ以外の方はご遠慮いただくよう制限したところ、今の時点では0台だと聞いている。

佐々木委員

そんなに悪い状態ではないようなので、経費もかかるし出来ればこのままということか。

生涯学習課長 その方向で考えているが、また状況を見てからご報告させていただく。

野藤委員長 その他。

野藤委員長 (「なし」という声あり)

野藤委員長 ではこの件については終了する。

(14) 子供の読書活動優秀実践図書館 文部科学大臣表彰について
(15) 浜田市県立高等学校支援連絡協議会の設立について

野藤委員長 この2件について、生涯学習課長。

生涯学習課長 (以下、(14)、(15)の資料をもとに説明)

野藤委員長 (14)について委員から質疑は。

野藤委員長 (「なし」という声あり)

野藤委員長 (15)について委員から質疑は。道下委員。

道下委員 協議会の中身が書いてあるが、地域のところに浜田市公民館連絡協議会会長副会長(代表)とあるが、これは2名ということか。

生涯学習課長 会長は雲城公民館の岡本館長、副会長代表は長浜公民館の滝口館長の2名である。

道下委員 まさにこれ、地域のあれが少ないと思うが。連携協議会も立ち上げていく必要があるという話が聞こえたが、それも踏まえてのことか。

生涯学習課長 まず連絡協議会という形で内輪が集まって、委員さんがおっしゃったように今度は自治会やPTA等、地域も広いので広げていって、連携協議会の方へ発展させたいと思っている。まずは第一歩として連絡協議会を設置した。

道下委員 だいたいいつ頃かは考えておられないのか。

生涯学習課長 一応今年度いっぱい計画を立て、31年度からは連携に発展させたいと考えている。

野藤委員長 その他。佐々木委員。

佐々木委員 島根県全体で、所定地域ごとに協議会を設立したということか。

生涯学習課長 各市町村域でこのような協議会を立ち上げたと聞いている。今年度は浜田市と江津市が立ち上げたと聞いている。

佐々木委員 先行してやっているところもあるというニュアンスだが、一番早いところは何年前くらいか。

生涯学習課長 元々は離島・中山間地域ということで5年くらい前から始まっ

	た事業だが、新しい事業になってからは昨年からスタートしている。昨年は大田市、益田市、美郷町、津和野町。松江市と出雲市はこの事業からは除外されている。安来は聞いていない。
佐々木委員	県内各地域や市でこれを進められていくとのことだが、だいたい何年先くらいに一定の評価を出す目的で設置されているのか。というのは、この構成委員の方や、校長も 2、3 年で代わる、公民館の方も行政の方も代わる。これは長いスパンの会になると思うが、目安等の決まりはあるのか。
生涯学習課長	特に決まりはないが、3 年ごとに事業を見直すと聞いている。浜田の各学校、浜田高校、商業高校、水産高校それぞれ狙いや目的を持っている。なるべく早い段階で連携協議会を立ち上げて、各特色を活かした、更には留学、他市他県からも呼び込むような施策を打っていきたいと話になっている。決して 2 年 3 年先というものではなく、なるべく早い段階で連携協議会を立ち上げていききたいという思いだ。
佐々木委員	連携協議会はすぐ立ち上がると思うが、立ち上げて一定の結果、評価を出す年数、例えば 1 年後というわけにはいかないと思うが、それをやるのか。
生涯学習課長	その中でも話をしていくわけだが、出来ることからスタートしていきたい。
佐々木委員	やはりこういった協議会は必要なものなのだろうが、先ほど言ったように年数が経てば人が変わる。機能できない会になってはいけない。なるべく早く結論を出し、より実効性のあるものにしてもらいたい。
生涯学習課長	承知した。
野藤委員長	その他。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	ではこの件については終了する。

(16) 青少年サポートセンターの利用状況について

野藤委員長	この件について、青少年サポートセンター室長。
青サポセン室長	(以下、(16) の資料をもとに説明)
野藤委員長	この件について委員から質疑は。沖田委員。

沖田委員 若年無業者の状況だが、継続して 21 名の方が職に就かれない
ということで間違いないか。

青少年サポートセンター所長 この辺の把握が難しいのだが、多少なりとも単純作業等を短期
間されたりすることもあるが、どちらかと言うと何もしていない
という数字を、今関わっている人の中では把握している。

沖田委員 その方に、例えば企業から「うちで働かないか」といった働き
かけ等はあるか。

青少年サポートセンター所長 青少年サポートセンターとしては、就労斡旋等は行っていない。
仕事がしたいということであれば、サポステやハローワーク等に
紹介して就労に結び付けることもあるが、この数字の中には、親
御さんから相談を受けている程度で本人とも接触出来てないケ
ースもあるので、なかなか就労にまで本人さんを含め気持ちが行っ
ていない状況の数字だと思っている。

野藤委員長 その他。道下委員。

道下委員 のべ相談件数の「学校問題」で、不登校と学校問題全体が、28
年度と 29 年度とではえらく増えているが、どのように理解した
らよいか。

青少年サポートセンター所長 件数についてはなかなか難しいところではあるが、最近はや
っと中学生さんの不登校について相談が増えている。そこから青
少年サポートセンターの居場所を利用することに繋がっていつた
りするので、その辺で不登校に関する件数が多少増えているので
はないかと思う。

道下委員 それにしても 20 歳未満が 128 から 229 と倍になっているとか。
これについてもそのような視点で捉えてよいか。

青少年サポートセンター所長 個別件数については、大変申し訳ないが集計上の数字なので、
同じ人からの相談も多数含まれていたりする。のべ人数ではなく
実数なら、これほどの差はないのではないかと思う。

道下委員 そこをもっと細かく分析して、ではどうあるべきか、こちらか
らどうサポートするのか、方向性を持ってやっていただきたいと
私は思うのだが。

青少年サポートセンター所長 義務教育である小・中学校については、教育委員会の中で連携
して、不登校については学校訪問をさせていただき、青少年サポ
ートセンターという所があるという周知と利用促進を図っている。

	1 回だけの相談から継続に繋がったりしているケースもある。高校生については、浜田高校定時制や通信制とも連携を取っている。そちらの学生さんの相談に乗ったりした件数もあると思っている。引き続き青少年サポートセンターの周知を図りながら、利用していただける、相談をしていただける所と認識してもらおうよう努力していきたい。
野藤委員長	佐々木委員。
佐々木委員	今の道下委員からの指摘で、不登校が倍に増えているのは、あくまで相談件数が増えているだけであって、実態として不登校が増えているということではないのか。
青少年サポートセンター所長	大変申し訳ないが、青少年サポートセンターでは不登校の実際の数字を、情報として多少いただいているが掴んではないので、必ずしも増加しているとは言えないと思っている。中には匿名の相談や、対象人数には挙がっていない相談もあったりするので、相談件数だけで実際を把握するのは難しいと思っている。
佐々木委員	教育委員会関係の方が揃っておられるので、その辺はもしかしたら誰かが答えられるのかと思って聞いたのだが。不登校が極端に増えたわけでないならいいが、もしそういった実態があるなら非常に問題だと思っての質問だが、いかがだろうか。
学校教育課長	今は細かい資料を持っていないので、また後程提示したい。3月末までの調査上の人数で言えば、小学校の不登校 20 名、中学校で 60 名。ただし不登校傾向といった数も少しある。28 年度と 29 年度の比較については資料を持っていないので、また改めてご提示させていただく。
道下委員	まさに今、お宅の所で数字が出ているのだから、これを元に詳細を問題にするべきだと私は思う。いかがか。
学校教育課長	私への資料提示がなかったもので、青サポさんの資料の中でのご質問だったので準備が出来ていなかった。大変申し訳ない。
野藤委員長	その他。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	ではこの件については終了する。

(17) 「しまね映画塾 2018in 浜田」スケジュールについて

野藤委員長
文化振興課長
野藤委員長
野藤委員長

この件について、文化振興課長。
(以下、(17)の資料をもとに説明)
この件について委員から質疑は。
(「なし」という声あり)
ではこの件については終了する。

(18) 消防団施設のあり方検討会の設置について

野藤委員長
警防課長
野藤委員長
道下委員
警防課長
野藤委員長
野藤委員長

この件について、警防課長。
(以下、(18)の資料をもとに説明)
この件について委員から質疑は。道下委員。
くれぐれも消防団員さんに説明して、企業等も協力してこちらが進めていけば、まだまだ要素があると私は思う。団員さんが新規で入る弊害にならないよう、是非肝に銘じてやっていただくよう申し入れたい。
消防団の消防力を低下させることがあっては、直接我々に響いてくることでもあるので、そういうことは思っていない。あくまで集約することによって消防力の強化に繋げるよう進めていきたいと思っている。
その他。
(「なし」という声あり)
ではこの件については終了する。

(19) その他

(配付物)

- ・平成30年度学校職員名簿
- ・平成30年度園児・児童・生徒数一覧
- ・浜田市立公民館館長・主事名簿

野藤委員長
文化振興課長

その他について。文化振興課長。
口頭で申し訳ないが1点報告する。日本遺産追加認定を受けたという報告があった。それについて今日の4時から市役所本庁舎前で、懸垂幕の除幕式を行う予定になっている。来週早々にはゆうひパーク浜田、浜田駅舎等に懸垂幕を掲げることになっている。今後は地域活性化に向けて案内板の設置等、諸々周知、交流に向けて努力していく。観光交流課が主にこれに携わっているが、今日は懸垂幕除幕式ということで、私からこの場で報告させていた

だいた。

野藤委員長

お手元に配布されている3点の配布物をご確認をお願いします。
その他、執行部から何かあるか。

(「ありません」という声あり)

野藤委員長

委員から何かあるか。西田委員。

西田委員

先日2件の火事があった。三隅町井野では1人亡くなられ、一昨日は寺が全焼した。このことについて市民の方から色々な情報を寄せていただくのだが、1つは防災無線による消防団への連絡に少し不具合があったことをお聞きした。もう1件はお寺の火事について、三隅消防署の目と鼻の先に現場がありながら全焼に至った。例えば救急で出ている最中に火事が起こったり、色々なことが想定されるのだが、今回の2件の火災については住民として少し不安を覚えておられるので、認識をお聞かせいただければと思う。

警防課長

1件目の放送に関してだが、確かに放送部分が1回目入ってなかったため、2回目の放送を行った。機器の不具合、操作の不備だったのかもしれないが、サイレンだけ入ってマイクが入っていなかった、その確認不足があったと聞いている。今後そのようなことが無いように注意して、機器訓練もしている。

2件目の向野田の時は私がしたが、特に問題なかったと思う。

西田委員

1件目は亡くなられている。これ以上は申し上げないが、今後は最悪の状態を想定されて、色々な整備や体制を整えていただくようお願い申し上げます。

警防課長

前日も金城でこのような事案があり、その後色々協議させていただいた中で、消防団員への通知メールで団員同士で連絡を取り合って出動するような形も取ってもらうよう進めている。三隅消防隊に関しては、それがもう非常に出来ている状況であり、今回の2件とも、メールによる招集の連絡は取られて対応されたと聞いているので、放送不備による招集の遅れといったことは無いと認識している。以後気を付けたい。

野藤委員長

ここで執行部からの報告事項18件及び配布物3件について、全員協議会へ提出すべきもの、資料配布のみとするもの、提出不

総務課長

要のものの決定をしたい。

執行部側の意向を伺いたい。総務課長。

報告させていただく。

- (1) 資料配布なし
- (2) 資料配布のみ
- (3) //
- (4) //
- (5) //
- (6) //
- (7) //
- (8) //
- (9) //
- (10) //
- (11) //
- (12) //
- (13) //
- (14) //
- (15) //
- (16) //
- (17) //
- (18) //
- (19) //

野藤委員長

以上執行部側の意向を聞いた。委員から質疑は。

(「なし」という声あり)

ではそのように決定させていただく。執行部はここで退席されて構わない。

《 執行部退席 》

野藤委員長

以上で総務文教の調査会を終了とする。

(閉 議 12 時 43 分)

浜田市議会調査会規程第6条の規定により、ここに調査会記録を作成する。

総務文教委員長 野藤 薫 ⑩